鈴木　はい。じゃあ、それでは、始めたいと思います。

芦刈　はい。

鈴木　はい。あの、ちょっと、その後のことについて、またいろいろ、お伺いしたいと思って。はい。お願いしたいと思います。

芦刈　はい。

鈴木　あのー、前回、あの、お話、聞かせてもらったとき、あの、8 月の終わりぐらいだったんですけど、あのー、その後、あれですか、あの、退院されて、外出ってどんな感じですかね。

芦刈　退院してからですか。

鈴木　あ、あの、外出は、もう、できてます？

芦刈　え、何ができてます？　え、何ができてますって？

鈴木　あ、外出ですね。外に出掛けることって。ええ。

芦刈　ああ、外出ですね。はい。（＃＃＃＃＠00:00:54）、あの、コロナが少ないんで結構、何回も出てますね。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　昨日、あのー、スシローに行ったんですよ。

鈴木　え？　どちらですか。

芦刈　スシロー。スシローです。

鈴木　え？　スキロ？　あ、ああ、スシローですね。はい。ちょっと、なんか聞き取りが、今回うまく音声が入ってないっすね。あのー、じゃあ、もう、あれですか、もう、外に自由に、もう、出掛けてるような感じなんですかね。

芦刈　そうですね。あの、センターの、あの、車を、会社の車、貸してもらって、まあ、あの、それを使って出掛けてます。

鈴木　あ、あの、お車は、どなたが運転されてんですか。

芦刈　その、ヘルパー。ヘルパーさん。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　ちょっと初めて今、練習して。

鈴木　はい。

芦刈　何回か乗ってから行くって感じで。で、僕のところ、1 人、元タクシーの運転手の人が入っているんで、その人と行ったりとか。3 人ぐらい、今できるので、その人のときに行くようにしています。

鈴木　そのタクシーの運転手の方は、ヘルパーさんなんですか。

芦刈　はあ。僕のところに入ってるヘルパーさん。

鈴木　そうですか。あのー、何ていうんですかね、その、あのー、徒歩で、車いすで、あのー、出掛けることってのもあるんですよね？

芦刈　そうですね。近所の、ちょっと出て歩いたりもしてます。最近、ちょっと遠くまで、少し行けるようになったんで。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　下のほうまで下りて行って、ちょっと。(＃＃＃＃@00:02:45)とか、いろいろなところに行くんですよ。ホームセンターとか。下にあるので。うん。で、この前、歩いてラーメン屋さんまで行って。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　ラーメン。はい。

鈴木　へえ。じゃ、近くに結構、そういうお店とかが、いっぱいあるってことですね。

芦刈　ああ。飲食店、結構、多いんですよ。ただ、あの、別府なんで、坂が多いです。坂、下りたり上ったりとか、あれなんですけど。

鈴木　でも、車いすとしては、電動で、えっと、あれですか、移動するような感じですか。

芦刈　そうです。電動ですね。

鈴木　坂道は特に気にならないですか。

芦刈　そう、あのー、坂道は大丈夫です。ただ、道が悪い所が多いので、そこ、ちょっと気を付けながら行ってる感じ。

鈴木　病院のときと比べて、あれですか、やっぱ行きやすいですか。

芦刈　もう、上が一切、外出禁止だったんで。

鈴木　ああ。ただ、前、病院のときも、あの、なんか近くに公園があったりとか、一応、市街地も、そんな遠くなかったりとかしたと思うんですけど。

芦刈　まあ、でも、出るときは全部タクシーで移動でしたね。車いすで出るってことは、めったに。

鈴木　ああ。ということは、やっぱ病院のときよりも、地形的には楽な感じになってる所なんですかね。

芦刈　はい。地形的には、こっちのほうがいいかもしれない。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　うん。

鈴木　電車に乗ったりとか、バスに乗ったりする機会あるんですか、今？

芦刈　いや、今、ちょっと、電車行くのは控えてるんで。

鈴木　あ、コロナで。

芦刈　うん。そうですね。ちょっと怖いなあと思って。

鈴木　ああ、なるほど。

芦刈　ずっと、ゼロは続いてるんですけど。

鈴木　はい。

芦刈　なんか、こええなと思って。

鈴木　うん。もう、た・・・。

芦刈　電車で行ったほうが安くていいですけど。

鈴木　ああ。近くにあるんですか、駅は？

芦刈　駅は、でも、歩いて行くのは、ちょっと遠いかな。

鈴木　ああ。じゃあ、もし電車に乗る場合は、車でそこまで行ってって感じですか。

芦刈　そうですね。うん。行ってって感じ。

鈴木　バスなんかも近くにあるんですか。

芦刈　バス停は、あるんですけど、ちょっと。僕は、ちょっとバスで移動するのは、ちょっと厳しいかなと思ってて。

鈴木　うん。

芦刈　やっぱり、結構、揺れるんで。結構、体、持ってないといけないので。

鈴木　ああ、なるほどね。

芦刈　バスは、ほとんど使ってないです。

鈴木　ああ。前、おっしゃってた、あの、個人タクシーでしたっけ。ああいうのって使う機会あるんですか。

芦刈　ああ、もう、何回か使ってるんですけど。

鈴木　うん。

芦刈　それはちょっと、お金がやっぱ、かかるので。今、本当、ほとんどセンターの車で移動してる感じです。

鈴木　へえ。それは、あれですか、センターの車、使うときって利用料はない、必要ないんですか。

芦刈　利用料は必要ないです。

鈴木　ふうん。

芦刈　あの、事前に予約書、書いて、いけないですけど。

鈴木　ああ、なるほどね。

芦刈　できれば、まあ、使える感じで。

鈴木　あの、もう、大体2カ月ぐらい、たってますけど、あれですか、調子というか、生活はどんな感じです？

芦刈　生活は、だいぶ落ち着いてきて、仕事も普通に。午後からなんですけど。

鈴木　はい。

芦刈　14時から16時半ぐらいで、ちょっとずつ仕事してるんですよ。

鈴木　へえ。それは、自立支援センターおおいたさんの事務所で、ですよね？

芦刈　そうです。

鈴木　毎日ですか。

芦刈　土日以外、毎日です。

鈴木　それは主に・・・。

芦刈　一回、初任給、出て。

鈴木　へえ。

芦刈　ちょっと自分のご褒美に日本酒、買ったり。

鈴木　フフフ。

芦刈　いろいろ買って、もうなくなりましたけど。

鈴木　アハ。そうですか。

芦刈　はい。

鈴木　日本酒を買ったんですか。

芦刈　うん。あの、久保田を買った。

鈴木　ハハハ。ちょっと高めのやつですね。

芦刈　うん。そうです。

鈴木　ええ。芦刈さんは、お酒、好きなんですか、そういう、日本酒というか。

芦刈　好きですね。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　うん。

鈴木　でも、病院のときって、日本酒、飲む機会ってありましたか。

芦刈　いや、やっぱ病院じゃ、飲めないので。

鈴木　ああ。やっぱ、それは、どんな感じでした？なんか、その、初任給で買うっていうのは。

芦刈　いや、働いてお金を稼ぐっていうのが初めてだったんで。もう、そんな大した量じゃないですけど。けど、やっぱ、うれしかったです。

鈴木　ああ。

芦刈　自分で働いて給料もらうっていう。うん。やっぱ、楽しいですね。

鈴木　ああ、なるほど。あの、えっと。2 時から 4 時半ということは、具体的に、どんなお仕事されるんですか。

芦刈　えっと、まあ、あの、今、僕が(＊＊＊＊ニュウタイ@00:08:34)して、生活してる様子とかを Facebook で上げて、見てる人が、自立生活いいなって思ってくれたり、私もやってみようかなって思ってもらうのが大事なことなので、それを伝えるために、今。ほとんど食べ物の投稿が多いんですけど、それを大体、毎日、上げるようにはしてるんですけど。

鈴木　あ、あと、それは、えっと、なんでしたっけ。あの、ブログですか。

芦刈　Facebook。

鈴木　Facebook。個人の Facebook ですか。

芦刈　そう。個人の Facebook です。(＃＃＃＃@00:09:17)とか、センターの Facebook のページとかで書いたりしてます。

鈴木　あと、なんか、ピアサポーターとしても活動されてるんですか。

芦刈　いや、まだ、全然。そっちでは、まだまだ。研修、受けてないので。

鈴木　うん。じゃあ、芦刈さんのお立場としては、なんか。なんかあるんですか、役職というか。なんか命名されてるものが、あるんですか。

芦刈　いや、特にはないですけど。呼吸器付けてるんで、なんか災害時は、なんか今、活動していて。災害時の対応みたいな。それで、まあ、意見を聞かれたりとか。ま、ちょこちょこ、あの、広報誌を。記事、書いたりとか、そういうことをしてます。

鈴木　あ、なるほどね。

芦刈　自分でもやりたいことは、いろいろあるんですけど、まだそこまで、できてない感じ。

鈴木　ああ。はい。

芦刈　(＃＃＃＃@00:10:23)支援とかしていきたいんですけど。ま、いろいろ準備はしてるんですけど、なかなか実行にはできて、移せてないので。

鈴木　あの、お体の調子としては、もう、順調ですか。

芦刈　そうですね。体、だいぶ生活に慣れてきて。これぐらいやったら、ちょっと疲れるかなってところで、やめたりとか。なんか仕事は、まだあんまり、そんなに。2 時間半ぐらいして、やっていこうかなと思って。

鈴木　でも、ま・・・。

芦刈　(＃＃＃＃@00:11:06)と、大変なんで。

鈴木　ああ。でも、前お伝えしてくれたように、あの、あれですか、朝 6 時かなんかに起きてっていう感じですか。

芦刈　そう。それは変わりません。大体 6 時起きで。

鈴木　で、車いすに乗ってる時間も、あれですよね、結構、比較的、長かったですよね。

芦刈　長いですね。大体 9 時すぎから、まあ、17 時。17 時まで乗ってる感じなんで。

鈴木　病院に比べると、だいぶ長くなってますけど、あの、体に痛みとかはないですかね。

芦刈　最初は結構あったんですけど、だいぶ体力は付いてきたかな。うん。むちゃは、できませんけど。うん。

鈴木　体力は付いてきたっていうのは、あれですか、体重とかなんかも変わってきてます？

芦刈　ちょっと増えてるかなと思います。

鈴木　フフフ。

芦刈　ちょっと、いい物、食い過ぎかなって。

鈴木　フフフ。その、えっと、体力っていうのは、その、なんか、まあ、体が、筋力っていうか、なんか、体的にはもう、健康になってるような感じになってってことですか。

芦刈　そうですね。うん。調子的にはいいかな。

鈴木　ふうん。

芦刈　うん。

鈴木　寝る時間なんかも、前、言ってたように、12 時とかですか。

芦刈　大体そうですね。

鈴木　ふうん。

芦刈　遅いときは、12 時過ぎたりもしますけど。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　はい。

鈴木　結構、あれですね、長い、あの、1 日だと思いますけど、大丈夫なんですね。

芦刈　そう。大丈夫ですね。

鈴木　ふうん。で、あの、主治医の方にお会いするのが、あれですよね、あの、毎月金曜日でしたっけ、あれって。

芦刈　そうですね。あの、月 1 回。

鈴木　月 1 回ですよね。

芦刈　1 回です。はい。

鈴木　で、えっと、退院されてから、あれですか、9 月の上旬とかに行かれたわけですか。

芦刈　そうですね。9 月の初めに。その 2 週間後ぐらいに(＃＃＃＃@00:13:30)って。でも、それから大体、金曜日に外来なんで。外来に出るので、主治医が。それに合わせて行ってます。

鈴木　ああ。はい。そのときに、あれですか、どんなふうに主治医の先生は、おっしゃってましたか。

芦刈　ああ、まあ、最初は、生活どんな感じか、すごい気になってたんで、いろいろ聞かれたんですけど、もう、この前、行ったときには、本当すぐ診察って感じで。(＃＃＃＃@00:14:05)。でも、安心したみたいです。なんか順調に、入院とかもなく来てるんで。ま、多少の体調不良は、あるんですけど、入院に至るまでのは、ないので。

鈴木　じゃあ、もう、主治医の先生としては、ちょっとは心配してて、でも、実際は、もう大丈夫だっていうふうな。

芦刈　はい。最初は、すごい気になってたみたい。

鈴木　うん。

芦刈　うん。今は、そんなに。(＃＃＃＃@00:14:43)たんで。

鈴木　じゃあ、もう、思った以上に、あの、主治医の先生が思った以上に、うまくいってるってふうに思ってらっしゃるんですかね。

芦刈　そうですね。そんな感じですね。

鈴木　ふうん。でも、この主治医の先生、もともと、ね、芦刈さんの退院、すごく、あの、支持してくださった人ですもんね。

芦刈　そう。そうですね。

鈴木　うん。

芦刈　うん。

鈴木　でも、周りの人って、えっと、何ですか、その、えっと、例えば、院長先生とかって、芦刈さんの退院について、なんか言ってるとか、ありますか。

芦刈　え。誰がですか。

鈴木　院長。院長ですね。

芦刈　院長、会ってないです。

鈴木　会ってないんだ。アハハ。そうですか。他、なんか、あの、地域連携室の、そういう人とか会いましたか。

芦刈　いや、地域連携が、あの、あんま関わってないっていうか。療養介護病棟は、連携室じゃなくて。だから、連携指導室が関わるみたいで。そっちでやったんで、あの、ほとんど話し掛けることもないし。

鈴木　ふうん。

芦刈　うん。全然。いても全然、話し掛けてくれないっていう。

鈴木　フフフ。えっと、じゃあ、療育指導室のどなたかと、お会いしましたか。

芦刈　ああ。最初のほうは会いました。

鈴木　何とおっしゃってました？

芦刈　いや、まあ、生活のこと聞かれて、いろいろ答えて、安心してた感じで。

鈴木　じゃあ、もう、あの、主治医の先生とお会いするときは、普通の診察で。もう、あの、何分くらい、あれ、やるんですか、診察ってのは。

芦刈　あ、なんか、やたら長いものは、1時間ぐらい、なんか、かかって。

鈴木　あ、結構かかるんですね。

芦刈　早くしてほしいなって思うんですけど。

鈴木　あ、早くしてほしい。うん。

芦刈　なんか、ゆっくり。ゆっくりするんで。

鈴木　ああ。え、検査とか、するわけじゃないですよね。

芦刈　ああ、あの、採血とかは訪問診療に頼んでるんで。検査は、特には、やってないです。はい。

鈴木　あ、ごめんなさい。訪問診療も頼んでるんですか。

芦刈　はい。

鈴木　あ。

芦刈　一応、緊急時に、(＃＃＃＃@00:17:30)もらう。

鈴木　あ、そうですか。訪問診療ってのは、その、西別府病院とは違う診療所ですか。

芦刈　西別府は訪問はやってないので。

鈴木　ああ。地域にあるんですね。

芦刈　はい。

鈴木　へえ。そうですか。

芦刈　あるんですけど、なんか、ちょっと頼むと、すぐ、西別府が担当やけん言われるんで。そこは、ちょっと戦って。緊急時に対応してって、今お願いしてるんですけど。

鈴木　あ、なるほどね。あの、普段は、その、地域の訪問診療所って、芦刈さんの対応はしてくれなかったんですよね。

芦刈　そうですね。なんかね。

鈴木　基本は、じゃ、緊急時だけみたいな感じなんですか。

芦刈　うん。そうですね。そんな感じ。

鈴木　ああ、そうですか。では、まあ、芦刈さんとしては、西別府病院の、その主治医の先生に診てもらって、それで安心できるかなって感じなんですか。

芦刈　そうですね。うん。そんな感じ。

鈴木　ふうん。もし、万が一、あの、土日だとか、緊急で対応、必要になったときは、訪問診療所にお願いするということなんですか。

芦刈　そうですね。

鈴木　ふうん。

芦刈　訪看、もう、1 回。時間外に 1 回だけ来てもらったんかな。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　うん。朝、（＃＃＃＃＠00:19:16）。夜中、呼んだりとかは、ないですね。

鈴木　ああ、そうですか。で、もし、なんかあったときは、基本は、あれですか、訪看に連絡するような感じですか。

芦刈　そうですね。まず、訪看に連絡して。それから指示を仰ぐって感じで。

鈴木　なるほどね。

芦刈　まあ、あの、緊急時は、直で救急車呼んでって言われてるんで。

鈴木　ああ。

芦刈　ちょっと熱が出たとかしたときに一応、電話して。

鈴木　はい。

芦刈　まあ、ちょっと、痛め止め飲んどいてって言われたりとか。まあ、指示でやってる感じで。

鈴木　なるほど。あのー、あの、病院に行かれるときって、リハビリもされてるんですか。

芦刈　一応やってます。でも、なかなかちょっと、1 回は体調、先月、体調不良で行けなかったんで。この前、初めて行って、久しぶりにリハビリしたんですけど。

鈴木　それは、11 月のあれですか、頭ですか。

芦刈　そうですね。その。

鈴木　じゃ、基本、西別府病院に、あの、主治医の先生にお会いするときにリハビリされるって感じですか。

芦刈　ああ。そうですね。

鈴木　ふうん。どのぐらいの時間やられたんですか。

芦刈　うーんと、1 時間ぐらいですかね。

鈴木　それ、あれですか、病院に、これまで入院されたときと変わらないんですか。

芦刈　そうですね、それは。あ、でも、今までは、週に4回ぐらいしてたんで。ちょっとリハビリ少ないんで、もうちょっと増やさないといけんなと思います。訪問とかも入れたいなと思ってるんですけど。

鈴木　ああ、はい。でも、通院の場合は、あれですか、やっぱ1カ月1回っていう限度があるってことですか。

芦刈　そう。そうですね。月1回しか行けないので。

鈴木　ああ。そうですか。

芦刈　診察受けると駄目みたい。

鈴木　ああ、なるほどね。内容的には、どんなことされてんですか、今のリハビリって。

芦刈　この前は、あの、STですね。あの言語聴覚士さんの。あの、嚥下のリハビリとか。

鈴木　はい。

芦刈　練習とかしてますね。

鈴木　あ、なるほど。でも、芦刈さんとしては、もっと、あの、リハビリやったほうがいいと思ってらっしゃるってことなんですよね。

芦刈　そう。しないといけないんで。僕も探そうと思ってる。

鈴木　ああ。あります？　別府市に。

芦刈　えーっと、一応あるのはあるんですけど、何カ所か頼んだら、断られたんで。

鈴木　ああ。そうですか。

芦刈　どうしようかなとは思ってるんですけど。

鈴木　え、断られたっていうのは、その、どういう理由で断られたんですか。

芦刈　えと、あのー、ちょっと対応できないみたいな感じで。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　この時期なんで。

鈴木　ああ。コロナ禍のためってことですか。

芦刈　そうすね。

鈴木　なるほどね。

芦刈　うん。

鈴木　じゃ、もしかしたら、今後、受け入れてくれる可能性はありますよね、そういう理由でしたら。

芦刈　そうですね。うん。ある。うん。どっかないかなと思って、他の人にも聞いてみようかな。

鈴木　ああ。あの、今、あれですよね、介助の時間は、1 カ月 842 時間でしたよね、今まで。

芦刈　そうですね。そんな感じです。

鈴木　十分、足りてらっしゃいますか。

芦刈　ああ、まあ、今のところは足りてるのかな。一応 2 人、介助に入ることもあるんで。うん。毎日、入るのかな。他の事業所も、ちょっと 2 カ所。あと 2 カ所入ってるので。

鈴木　はい。

芦刈　3 カ所、全部で入ってるんで。

鈴木　あの、退院された当初と人数、変わってないんですか、介助者の人数は。

芦刈　ああ。人数は変わってない。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　うん。

鈴木　じゃ、皆さん、あのー、あの、何ていうんですかね、ま、介助者は続いてる。続いてるというか、まあ、まだ3カ月ちょっとですけど、続いてるような感じですかね。

芦刈　うん。

鈴木　特に、介助者不足して、あのー、問題になったりとか悩んだりすることは、ないっていうことなんですかね。

芦刈　そうですね。

鈴木　ふん。

芦刈　ちょっと、あのー、ちょっと、あの、抜けたりする人も、ちょっと、何人か出てるので、そこでちょっと、メンバー、ちょっと入れ替えが少し、あったにはあったんですけど。

鈴木　あ、抜けた人いるんですね。

芦刈　あ、ちょっと、いろいろありまして。

鈴木　あ、そうですか。はい。それは、介助者との関係性ということですか。

芦刈　そうすね。それもあるんですけど、まあ、(＃＃＃＃@00:25:10)の関係で、いろいろ。

鈴木　ああ。で、その、入れ替わってすぐ新しい方って入りました？

芦刈　あ、もう、ちょっと入る予定ではあったので、すぐ入って。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　ベテランの人が入ったんで。

鈴木　ふうん。皆さん、あれですか、男性の方ですか。

芦刈　いや、女性もいます。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　はい。

鈴木　それは、特に気にならない感じですか。

芦刈　あ、全然。僕は大丈夫です、どっちでも。

鈴木　ああ。

芦刈　うん。

鈴木　10 人ぐらい、いらっしゃるんでしたよね、介助者って全部で。

芦刈　そうですね。

鈴木　うん。

芦刈　まあ、夜勤が 5 人ぐらいで、やってる感じ。

鈴木　あ、はい。

芦刈　あと、日勤帯だけの人とかもいるし。

鈴木　うん。

芦刈　僕専属だけの人、今２人います。

鈴木　あ、なるほど。専属の・・・。

芦刈　（＃＃＃＃@00:26:12)。

鈴木　あ、その専属の方って、あれですか、自立支援センターおおいたさんの派遣での人ですか。

芦刈　そう。みんな登録があって。センターのほうになってる。

鈴木　あ、そうですか。その、専属にされてるっていうのは、あの、それは、お願いされて、そういうふうにしたってことですか。

芦刈　そうですね。うん。

鈴木　ふうん。

芦刈　ちょっと知り合いの人なんで。

鈴木　あ。

芦刈　友達とかなんで。

鈴木　なるほど。

芦刈　はい。

鈴木　へえ。あの、その、ご友人の方がヘルパーをされて、その人が専属をされてるってことなんですね。

芦刈　そうですね。

鈴木　へえ。結構、あれですか、時間数、入ってんですか、その専属の方は？

芦刈　はい。結構、入ってる人と、家庭がある人なんで。

鈴木　あ、はい。

芦刈　そんなには(＃＃＃＃@00:27:19)。週１回ぐらいなんですけど。

鈴木　あ、週１回ね。

芦刈　そう。

鈴木　その、専属の方と、その、専属じゃない方って、あれですか、芦刈さんにとって、なんか違いとかってありますか。

芦刈　うーん。いや、まあ、それは、知ってるから慣れてるっていうのはあるんですけど、うん。まあ、でも、2 人とも慣れてきたので、(＃＃＃＃@00:27:54)普通に楽しく生活できてます。

鈴木　ああ、そうですか。なんか、あの、いろいろ指示しなきゃいけないことって、病院にいることよりも増えたと思うんですけど、それは、問題なく、やってらっしゃいますか。

芦刈　まあ、そうですね。それは、もう、だいぶ。うん。言えるようになったんで。もう、あの、言わなくても動いてくれるようになってるんで。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　大体やることは決まってくるので。

鈴木　あ、なるほど。

芦刈　はい。

鈴木　あの、なんか、その、介助者の人と、ずっと、こう、一緒にいる時間が長いと思うんですけど、それは、もう慣れましたか。

芦刈　そうですね。もう、それは大丈夫です。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　はい。

鈴木　あの、彼女さんは、まだ、お手伝いされてるんですか。

芦刈　ああ、たまにです。

鈴木　あ、たまに。もう、あれですか、あの、入った当初よりも、手伝う時間っていうのは、少なくなってきてるような感じなんですか。

芦刈　そうですね。まあ、だいぶ任せれるようになったんで。

鈴木　ふうん。

芦刈　はい。

鈴木　じゃあ、もう、介助者の人たちも、あの、自分たちでやれるようになったってことですね。

芦刈　そうですね。

鈴木　ふん。

芦刈　呼吸器も、だいぶ慣れてきたんで。

鈴木　ああ。その、呼吸器に慣れるっていうのは、なんか、特別、何かすることあるんですか、介助者の人は。

芦刈　いや、もう、やりながら。うん。呼吸器どこ向けたら悪いのか、だいぶ分かってきたんで。

鈴木　うん。でも、その呼吸器関係で、なんかトラブルが起きたことって、今まで、ないですよね？

芦刈　ああ、まあ、ちょこちょこは、あるんですけど。

鈴木　ああ。

芦刈　そんなに大きなトラブルは、今のところ、ないです。

鈴木　つまり、メーカーに、こう、来てもらうとか、そういうことはないってことなんですよね。

芦刈　いや、それは、しょっちゅうあります。

鈴木　あ、それは、しょっちゅうある。

芦刈　(＃＃＃＃@00:30:18)あるんで。うん。

鈴木　何らかの不具合ですか、それは。

芦刈　まあ、ちょっと回路の関係で。

鈴木　ああ、回路ね。うん。

芦刈　入りが、ちょっと悪かったりとかあったんで。

鈴木　何が悪かった？

芦刈　呼吸器の入りです。

鈴木　あ、入りね。ああ。それは、あれですか、病院にいるときも、そういうことって、よくあったんですか。

芦刈　ああ、まあ、ちょこちょこは、やっぱ、あります。

鈴木　ふうん。

芦刈　うん。

鈴木　じゃ、それは、病院も地域も、基本は、そういうことは、よくあるってことなんですね。

芦刈　そうですね。

鈴木　ふうん。

芦刈　うん。

鈴木　なるほどね。で、まあ、芦刈さんとしては、まあ、地域にいても、そういう、何ていうんですかね、あの、呼吸器の問題の不安とか、そういうことは特にないような感じなんですかね。

芦刈　いや、不安は、ありますよ、やっぱり。

鈴木　ああ、ありますか。

芦刈　まだ本当の、こう、トラブルに遭っていないので。

鈴木　うん。

芦刈　その対応とかが、どうなのかなっていうのはあって。

鈴木　うん。

芦刈　自分で、あの、アンビューバックの使い方を、昼間のとき教えてて。

鈴木　はい。

芦刈　ちょっと訪問看護さんに言ったら、なかなか動いてくれなかったんで。

鈴木　ああ。

芦刈　もう、自分たちで、やっていいよっていう(＃＃＃＃@00:31:43)にしてくれたので。

鈴木　はい。

芦刈　(＃＃＃＃@00:31:46)は、ちょこちょこ自分たちで、やってるんですけど。

鈴木　アンビューバックのやり方ですか。

芦刈　はい。そうです。

鈴木　それは、あれですか、やっぱ、病院にいるときよりも、そういう動きっていうのは、なんか鈍いっていうか。

芦刈　病院はもう、全員、覚えなきゃいけないので。

鈴木　うん。なるほどね。

芦刈　そう。あんまり使う機会もないのかもしれない。

鈴木　ああ。なるほど。じゃあ、ちょっと、まあ、地域の分、地域のほうは、ちょっとその部分の、病院と比べて、不安があるっていうことなんですかね。

芦刈　うん。

鈴木　うん。でも、まあ、徐々にそうやって、自分たちでアンビューバックをやって、あの、まあ、病院ほどではないけれども、地域でも安心して暮らせるようにはしてるってことなんですか。

芦刈　そうですね。そう。いかないと。自分の身は自分で、やっぱ守っていかないと、なかなか。

鈴木　なるほどね。なんか、そういう感覚って、あれですか、病院にいるときよりも自分で、こう、やんなきゃいけないっていう感覚って、増えてるような感じですか、その、呼吸器の部分で。

芦刈　そうですね、やっぱり。病院では、任せっぱなしだったとこもあったんで。

鈴木　うん。

芦刈　病院でも、でも、だいぶ自分で言っていって。自分で覚えて、こう、教えていかないと、自分がきつい。きつい思いをするんで。うん。

鈴木　なるほどね。あと、あの、お父さまとか、まだ、あれですか、毎週のように通ってらっしゃるんですか。

芦刈　たまに。週 1 回、来るか来ないかぐらいで。

鈴木　あ、もう、じゃ、回数的には減ってきてるんですね。

芦刈　はい。そうですね。あ、ちょっと待ってください。

（無音）

芦刈　はい。すいません。いいですよ。

鈴木　あ、大丈夫ですか。はい。

芦刈　はい。

鈴木　あの一、ま、お父さまも 1 週間 1 回、来るか来ないかっていう感じになってきてて、何か・・・。

芦刈　母は、あんまり。母は、あんまり来てないですけど。

鈴木　お母さん。

芦刈　3 回ぐらいしか。

鈴木　ああ。

芦刈　仕事、忙しいのもあるんで。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　うん。そう。なかなか来てないですけど。

鈴木　うん。

芦刈　でも、あの、野菜とかいっぱい持ってきてくれたりとか、肉持ってきて、牛肉持ってきてくれたりする。それ、すごい、なんか、両親も安心してくれたみたいで。うん。そういう感じで、なんか、いろいろ援助してくれてます。

鈴木　へえ。あの、なんかおっしゃってますか、あの、退院した後。

芦刈　いや、ちゃんと生活できてるんかっていうのを毎回、聞かれる。

鈴木　ハハハ。

芦刈　まあ、でも、全然、その、親にお金を、ちょっと援助してっていうのは全くないので。だから、逆に、言ってこないんで、ちょっと寂しがってるんですけど。

鈴木　フフフ。

芦刈　最初から、頼らんでやろうって思ってたんで。その、くれる物は、ありがたく、もらうんですけど。

鈴木　じゃあ、まあ、自分の、その収入で、何とか今やりくりできてるような状況ってことですね。

芦刈　そうですね。

鈴木　通帳なんかも自分たちでね、管理されてるわけですよね。

芦刈　そうですね。自分で管理してます。

鈴木　ああ。銀行に行くことも時々あるんですか。

芦刈　そうですね。行くことありますね。

鈴木　ふうん。あれですね、今まで銀行に行って、お金を引き出すっていうことって、やってらっしゃったんでしたっけ。

芦刈　いや、ほとんどやってない。

鈴木　ああ。

芦刈　病院にATMがあったんで、お金下ろすのはあったんですけど。

鈴木　はい。でも、銀行の窓口に行くっていうことは、今回、あれですよね、あの、初めてというか、珍しいわけですよね。

芦刈　そうですね。

鈴木　うん。やっぱり、そういうふうに、やったほうがいいなっていう感じはありますか。

芦刈　そうですね。あの、自分。なかなか自分で下ろしには、今も行けてない。

鈴木　ああ。はい。

芦刈　ちょっと、すみません。もう一回、待ってください。

鈴木　あの、銀行に行くっていう。

芦刈　ちょっと、一回、待っててください。

鈴木　ああ。はい。

(無音)

鈴木　大丈夫ですか。

芦刈　はい。

鈴木　はい。で、あの、まあ、これまで銀行に行く機会は、なかったけれども、今、窓口に行って、ま、お金を下ろしたりとかいうことは、やり始めてるって感じなんですかね。

芦刈　そうですね。ちょっと帰りに行ってもらったり。

鈴木　ああ。

芦刈　(＃＃＃＃@00:37:38)は、してますけど。

鈴木　ふん。まあ、あの、何ていうんですかね、あの、電気代だとか、水道代とか、そういうことは気に掛けながら生活されてるってことなんですかね。

芦刈　そうですね。電気代も、もうちょっと、かかるかなと思ったんですけど、意外と、まあ、安くはなってるんで、よかったかなと思ってるんですけど。

鈴木　ああ。思った以上に、あれですか、あの、ある程度、収入の範囲内で、できてくるなって感じですか。

芦刈　ああ、まあ。年金が2カ月に1回なんで。

鈴木　ああ。

芦刈　あ。(＃＃＃＃@00:38:21)。すみません。はい。そうですね。まあ、自分のお給料も、ちょっと、まあ、入るんで。うん、その、特別手当が3カ月に1回かな、来たんで。まだ、それ入ってないので、次、入れば、もうちょっと楽かなと思って。

鈴木　ああ、なるほどね。特別手当、3カ月、1回。

芦刈　毎月、家賃。家賃、払わなきゃいけんから。

鈴木　ああ。

芦刈　ちょっと、まあ、少しずつは、ためてはいるんですけど。

鈴木　なるほどね。じゃあ、その、年金2カ月に1回なんですね、あとは。

芦刈　そうですね。2カ月に1回。

鈴木　それは、ちょっとあれですよね、あの、本当は、毎月のほうが、いいわけですもんね。

芦刈　そうですね。今は、そっちのほうが。

鈴木　なるほどね。あと、あの、お料理なんかも、ご自身で今、作ってらっしゃるんですか。

芦刈　まあ、自分で作るっていうより、まあ、こういうの作ってって言って、まあ、作ってもらったり、まあ、一緒に見ながら作ったりとか。

鈴木　うん。

芦刈　料理うまい人には、もう、ここへ作ってきて、作ってもらって。うん。全部、自分でやってたら、ちょっと疲れるんで。

鈴木　ああ。はい。

芦刈　そこは、うん。臨機応変に。

鈴木　臨機応変にね。そういう・・・。

芦刈　買ってきた物、食べるってこともあります。

鈴木　あ、なるほど。じゃ、その辺は、何ていうんですかね、さっきも、あの、決まったことは、もう、任せるみたいなの、おっしゃってましたけど、ま、ある程度、任せても、別にセンターとしては、何ていうんですかね、あの、いいというか。

芦刈　別に、それは自由なんで。

鈴木　ふん。

芦刈　自分の生活なんで。

鈴木　なるほど。

芦刈　それは別に、こうしろ、ああしろっていうのは、ない。

鈴木　ふん。

芦刈　もう、作りたければ作ればいいし。

鈴木　はい。

芦刈　うん。

鈴木　なるほどね。あの、今のマンションの、あの、住環境っていうか、それは、なんか不便なとこは、ないですか。

芦刈　そうですね。そんなにはないですかね。

鈴木　ふうん。バリアーもなく、自由に使われていると。

芦刈　そうですね。

鈴木　あと、前おっしゃってた、あの、西別府病院から、なんか、退院を考えてらっしゃる人って、いらっしゃるって話しされてましたけど、芦刈さん、何かサポートされてるんですか。

芦刈　あ、まだ、僕は特に何もしてなくて。(＃＃＃＃@00:41:23)やってます。

鈴木　ああ。はあ。

芦刈　なかなか大変そうです。

鈴木　ああ、なるほどね。でも、やっぱり、芦刈さんが退院されたってことは、結構いろんな人に影響があるっていう感じなんですかね。

芦刈　どうなんですかね。病棟、行けないんで、よく分かんないんですけど。病棟も、ちょっと早めに(＃＃＃＃@00:41:52)とか、結構いろいろあったみたいで。

鈴木　あ、そうですか。

芦刈　前、一緒の部屋の人、ばらばらになったみたい。

鈴木　え。あ、そうなんですか。

芦刈　違う部屋に。うん。

鈴木　ああ。

芦刈　病棟は一緒ですけど。

鈴木　うん。でも、その新しい、あの、退院される予定の人って、あの、別の病棟なんですもんね。

芦刈　そうですね。2 階の方です。

鈴木　ああ。はあ。

芦刈　はい。

鈴木　はい。あの、ちょっと、あの。ちょっと過去のことで、確認したかったんですけど。

芦刈　はい。

鈴木　あのー、芦刈さん、あのー、えっと、西別府病院の支援学校、卒業された後って、あのー、太陽のそのって訪問されてますよね？

芦刈　太陽の家です。

鈴木　あ、ごめんなさい。太陽の家か。太陽の家。そのときって、やっぱり、あのー、自立することって難しいって思ってらっしゃったって、この、お話しされていましたよね、なんか。

芦刈　ああ。あの頃は、そういう(＃＃＃＃@00:43:05)訪問とかいう制度がなかったんで。

鈴木　うん。

芦刈　普通に生活するのは無理だなと。

鈴木　ああ。はあ。で、その後、あれですか、あの、芦刈さん、いろいろ講演活動ってさ

れてますよね？

芦刈　そう。してますね。

鈴木　あれって、あれですか、毎月のようにやられてたんですか、あのときって。

芦刈　いや。ああ、毎月ではないですけど。まあ、大体、年末とかが多かったですけど。12 月が人権週間とかあったんで。

鈴木　ああ。はい。ねん・・・。

芦刈　あのー、呼ばれれば行くって感じだったんで。

鈴木　あ、そうですか。年間、どのぐらいされてました、講演活動って？

芦刈　多いときで、まあ、8 回ぐらいは。

鈴木　8 回。

芦刈　そう。

鈴木　それが、何年間ぐらい、やられてたんでしたっけ。

芦刈　それは、多分、まあ、6 年、7 年。

鈴木　あ、結構、長くやってらっしゃたんですね。

芦刈　そう。

鈴木　で、今でも、あれですか、講演とかってあるんですか。今の。

芦刈　いや、今は特にないですけど。まあ、ちょっと、やってほしいって何人かは言われてるんですけど。

鈴木　ああ。はあ。

芦刈　ちょっと実現はできてないです。

鈴木　でも、結構、なんか、もう、ZOOM とかでね、いろいろ、いろんなお話しされてて。そういう形では、もう、やってらっしゃいますもんね。

芦刈　そう。

鈴木　出版活動なんか、これから考えてらっしゃるんですか。

芦刈　まあ、今んところ、まだ考えてないです。

鈴木　ああ、そうですか。でも、芦刈さんが今後、何ていうんですかね、あの、活動っていうか、どんなふうなイメージされてるのかなって、最後、聞きたかったんですけど。

芦刈　ああ、そうですね。あのー、そのー、自立、目指す人の、まあ、支援は、もちろんなんですけど。

鈴木　うん。

芦刈　そういう本とか、自立してからのことを、まとめてもいいかなと思ってたりとか、あと、講演も呼ばれればしていきたいし。

鈴木　うん。

芦刈　で、なんか、コロナもだいぶ落ち着いてきて、今後、落ち着いていけばいいんですけど、(＃＃＃＃@00:45:44)、地域に出て、こういう呼吸器付けてる人は、見たことない人、多いと思うんですよ。

鈴木　はい。

芦刈　で、こういう人もいるっていうのは、周囲に知らせていくのが大事なのかなと。

鈴木　なるほど。

芦刈　まずは、知ってもらうことかなって。そうやってやってると、まあ、他に呼吸器付けて出た人が、外に出掛けやすくなるっていうか。すると、お店も、いろいろなところ行

って、まあ、対応してもらうようにしてもらえると。

鈴木　なるほどね。今のところ、その、お店とかで断られたりとか、そういうことって経験されたこと、ありますか。

芦刈　いや、いっぱいありますよ。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　はい。

鈴木　あの、退院した後も？

芦刈　そこまでは、しませんけど。

鈴木　うん。

芦刈　すごい。なんか対応が、すげえ悪かったりとか。

鈴木　ああ、そうですか。

芦刈　僕が行った、ちょっと、ラーメン屋さんは対応がすごい嫌で。入り口、狭い。で、二重扉になっちゃって、一回、入って、右に曲がって、（＃＃＃＃＠00:47:01）といけないんで。

鈴木　うん。

芦刈　うん。入りにくかったんですけど、そこ、改装して入りにくくなったんですよ。

鈴木　ああ。

芦刈　けど、どうしても行きたいっていって。そしたら、逆ぎれされて。

鈴木　うん。

芦刈　「中、見てください」って言われて。

鈴木　うん。

芦刈　入り口(＃＃＃＃@00:47:23)、すごい逆ぎれされて。

鈴木　ああ。

芦刈　なんか、そういう対応されると、なんか、食べ物おいしくないんで。

鈴木　ですよね。うん。

芦刈　もう、あの、二度と行かねえと思って。

鈴木　ああ。そのときは一応、入れたんですか。

芦刈　一応、もう、入ったんですけど、帰ればよかったなって思ったんですけど。

鈴木　ああ。

芦刈　そこで帰るのもなあと。

鈴木　なるほどね。うーん。でも、あのー、日本のね、あのー、えっと、ま、障害者差別解消法も改正されて、民間のね、そういったところも配慮しなきゃいけないっていうふうになりましたから。

芦刈　ですね。うん。

鈴木　うん。ま、一応、法律が変わってきてますけど、現実は、そうやってギャップがあってみたいな感じですか。

芦刈　まだ全然ですね。

鈴木　うん。

芦刈　スロープとかも、だいぶ付いてきたんですけど、取りあえず付けましたって感じで。

鈴木　うん。

芦刈　上った後の、ちょっと踊り場が短かったりとか。ちょっとぐるっと、ちょっと回れなかったりするので。

鈴木　なるほどね。

芦刈　で、僕のは、でかいんで、車いすが。

鈴木　ああ。

芦刈　やっぱりスロープが狭かったら行きにくいし。

鈴木　なるほど。

芦刈　まだそこまでは、やっぱり考えてないのかなっていう感じ。

鈴木　なるほど。

芦刈　なんか、そういうこともあるんで、あえて行って、見てもらうってのも大事かなって。

鈴木　なるほど。まあ、あの、そういう形で、まあ、芦刈さんも活動されたいなっていう感じなんですかね。

芦刈　そうですね。そういうの、していきたいなあと。

鈴木　ああ。でも、それは、すごく大事なことですよね。

芦刈　そうですね。

鈴木　うん。

芦刈　多分、それが自分が出た意味なんかなと思う。

鈴木　なるほど。はい。

芦刈　せっかく呼吸器付けちょるけ、生かすじゃないけど、そういう感じの活動を僕は重視していけたらなと。

鈴木　なるほどね。

芦刈　ちょっと他の人とは、ちょっと違うことをやれたらなあと思ってて。その、違う目線で。そう。(＃＃＃＃@00:49:50)人が多いので。

鈴木　うん。

芦刈　そういう人たちに、ちょっと合わせてかないと、体が持たないんで。

鈴木　うん。

芦刈　自分のペースで、まあ、自分にできることをやれたらいいかなっていう。まだ全然そんな、はっきり見つかってるわけじゃないんで。

鈴木　はい。

芦刈　いろいろ教えてもらいながら。

鈴木　うん。

芦刈　勉強中って感じです。

鈴木　なるほどね。いや、本当に、それは、芦刈さんしか、できないような気がしますから、あの、ぜひ、あの、展開してほしいなと思いますね。

芦刈　頑張っていこうかな。

鈴木　はい。ありがとうございます。大体、あの、きょう、ちょっとお話、聞きたいことは、お伺いできました。また、ちょっとあらためて、お伺いさせてもらうかもしれませんけど、その際には、よろしくお願いします。

芦刈　はい、お願いします。

（了）